赤ちゃんの四季（12）　平成15年冬

赤ちゃんの微笑み

脳科学の進歩は、赤ちゃんの脳の発達についてさまざまなことを明らかにしています。赤ちゃんは生まれたときから母親の顔を認知し、母親の声を聞き分けるとさえ言われています。生まれたての赤ちゃんを抱き上げてじっと見つめていると、赤ちゃんもこちらを見据えます。こちらが舌をぺろりと出すと、同じように舌を出す動作をします。微笑みかけると、赤ちゃんの表情は緩みます。

赤ちゃんが「ほほ笑みはじめる」のは1〜2か月と育児書に書かれていますが、その開始時期は周囲の大人の赤ちゃんへの関わり方に大きく左右されます。お母さんが赤ちゃんに正面から向かい合っていつも笑顔で話しかけていると、赤ちゃんは笑顔に反応し、早くからほほ笑み始めます。

赤ちゃんは、親だけでなく目線が合うと誰に対してもほほ笑み返してきます。中学生をじっと見つめようものなら刃物で刺されかねません。若い女性にやたらとほほ笑みかけると、不愉快そうにプイと横を向かれてしまいます。赤ちゃんが可愛いのは、誰にでもほほ笑み返してくれるからです。

「ほほ笑み」は、相手のこころを癒す最高の思いやりです。悲しみに打ち沈んだ患者さんにとって、ナースの「ほほ笑み」は最高のプレゼントです。お互いがほほ笑みで接していると、戦争もテロも起こらないでしょう。

住みやすい社会をつくるには、赤ちゃんがいつまでもあのほほ笑みを忘れないように育てることです。それには、お母さん、お父さん、どんなに疲れたときにも赤ちゃんの笑顔にはしっかりと応えてあげて下さいね。